

スーパー コピー 腕時計選びの注意点、白川 店長のおすすめ

1. 腕時計の外観部品をチェックする

外観はケース、ミラー、文字盤、時分割秒針などからチェックできる。トラストアイと明らかな傷がないケース、対称的な角;後蓋と上殻の旋合処は綿密でなければならぬ;二つのリングはそれぞれケースとの距離が等しく、耳のファンを取り付ける穴はケースの脚の尾部の位置で中央に偏らないようにし、穴の深さは適当で、リングが外れにくいようにする。小さな傷や傷がなく、透明であること。3針は正確に取り付けて、針と針、鏡と文字盤の間に正しい安全な隙間があるべきです;文字盤と針は光沢がよくて、傷がなくて、文字盤の目盛りの線や夜光点完全に;ヘッドとケースの間には約 0.1 ~ 0.3mm の隙間がある。

2. スーパー コピー 時計の感度をチェックする

時計の感度とは、テンプが自働的に振り子を起こす機動性のことです。検査方法は、

1)ゼンマイをかけずに動きが止まっている時計を軽く振ってみて、その力を借りて秒針の動きを観察する。秒針が非常に短い時間で動きを止めた場合は、この時計は足ゼンマイをかけた後にすべて歩くことができ、感度が高い。もし秒針が長い時間連續して動いているならば、その時計はゼンマイを巻いても完全には動かない(つまりゼンマイにモーメントが蓄積されている)、感度が高くない、または時計機器が故障していることになります。

2)ゼンマイがかかっていない時計をゆっくり回し、秒針の動きを観察する。上条の動きが少ないほど、秒針の動きが早いということは、この時計の感度が高いことを意味する。逆に感度が低かったり、他の故障があったりする。ただし、速い振り子時計に注意するのは、剛性が高いので、伝統的な周波数(18000 回/時間)の時計機械

よりも多くのゼンマイ能力が振り子を開始します。感度の高い時計は、一度ゼンマイを巻いてからの持続時間が長い。

3、時計の針の間隔や位置をチェックする

針とミラー、文字盤と三針の間に一定の間隔を空けないと、お互いに擦れたりして機械の正常な運転に影響を与えます。ダイアルで観察することができます。時針と分針の位置と相性が合っているかどうかのチェック方法は、分針と時針を3時、9時に合わせて直角になっているかどうか。6時まで回して、2針が直線になるかどうか;12時に回して、針が重なるかどうか。

4、腕時計の上条機構をチェックする

普通の時計は楽なはずだ。グリップを回すとき、ゆるく思っていたものが、だんだんきつくなってきて、連続して前に回すことができなくなったときは、完全にゼンマイが巻かれ、ゼンマイ機構が正常に働いてることになる。取っ手の上条を回転させた際に、「キャッキャッ」という異常な音が発生したり、頂歯が滑るなどの現象が生じた場合は、上条機構に不具合があったものとする。

5、腕時計のダイアル機構をチェックする

時計は針を回す时机的で、信頼性と平均を回すべきです。検査時に分輪と中心輪軸の摩擦配合の緊張度を重点的に検査しなければならない。ダイアルする時、少し緩いあるいは少しきつい感じがなければ、分輪摩擦力が正常と適量を注油することを説明して、逆に、ダイアル機械の部品は故障があります。